

「三谷十舗の辻」
(三谷町十舗)

古代以前の西田川河口は、力川も合流し広大で、海岸線は西田川公園から三谷神明神社を経て三谷小学校南まであったと思われます。そしてこの辺りは、中世以降の海退現象により陸地化し、江戸時代には塩田として活用されていましたが、台風や大雨に対してもろく弱い土地でした。

明治初めから大正末にかけて、三谷港の整備と硯川から西田川までの海岸部干拓が進められ、広大な平地が造成されました。これが漁業・海運と織物業発展の基盤となり、1937年(S12)県水産試験場誘致、1948年(S23)三谷水産高校開校、1971年(S46)には市民プールが開設。

そしてこの辻は、東西を結ぶ国道23号線と、北へ向かう古道で、豊岡町(旧牧山)・国坂峠を経て国府に至る県道芦谷蒲郡線の交点となっています。23号線には、干拓の後、役場など主要な施設が配置され、1909年(M40)西田川を渡る凱旋橋が架けられ府相と結ばれて以来、メイン道路として機能しました。さらに、1923年(T12)蒲郡へのバス路線が開通し、後に豊橋まで運行されました。

この絵は、辻から見て東も西も道が曲がりくねり、家並みがおもしろいのですが、北に向かってJRのガードを中央にして描きました。



現在の景色

目次 Contents

土地情報	3-5
防災特集	6-7
健康づくりの実践者にならしましょう	8-9
応援します あなたの地域デビュー	10-11
MYスクール・図書館だより	12
まちの達人・読む水族館	13
遊びにおいでよ児童館へ	14
健康カレンダー	15
市民相談	16
いちおし逸品	17
お知らせ	18-31
クイズまちがいさがし・編集後記	32
ふれあい宅配便	33
地面の下にはなにがある？	34
こどもミュージアム	34



樹木医・技術士(建設部門・環境部門) 原野幹義

「真夏の夜の夢 熱帯性スイレン+睡蓮木」

このところの夏は、最高気温が35℃を越える猛暑日が続く、夜は夜で眠られぬ熱帯夜が続いています。サザエさん家の波平さんではないけれど、タオルケットと枕を持って、涼しいところを探して板の間で寝たりもします。そんな気分の時にぴったりの花が熱帯性スイレンです。

普通のスイレンと異なり昼咲きの他に夜咲きもあります。妖しく蛍光色を帯びた花びらの重なるの中心に、黄色の明かりを灯したような花姿は、妖艶さを秘めています。人の心を吸い込むような幻想的な色合いです。シェークスピアの戯曲のように、妖精たちが出てきて、不思議な真夏の夜の宴が、始まりそうな錯覚に陥ります。



睡蓮木

一方、睡蓮木はその花の姿がスイレンに似ていることから名付けられました。見比べてみると確かに似ていると思いますが、断然スイレンの方がきれいだと感じられるのでしょうか。でも、園芸店や庭先でこの花に出会うと、思わず足を止めてしまうでしょう。普通の木の枝先に、一見、似つかわしくない優しい花はどこかで見たような？と。真夏の昼の一杯の清涼剤です。南アフリカの原産で冬の寒さに弱いのですが、暖冬のせいで、雪や霜に気を付ければ路地での越冬も可能です。



熱帯性スイレン